令和5年6月26日

課題解決型実践事業
「身体表現的手法を用いた友達作りワークショップ（城東小学校）」
業務委託

報告書

友達作りワークショップ

日時　：　令和5年6月13日（火）

講師　：　yummydance（ヤミーダンス）のメンバー４名

場所　：　丸亀市立城東小学校　体育館

対象　：丸亀市立城東小学校　２年１組、２組、３組の児童９１名

日程	スケジュール	学年・クラス
６月13日（火）	２時間目　　9：10～9：55	２年３組
	３時間目　10：15～11：00	２年１組
	４時間目　11：10～11：55	２年２組

アンケート結果

回答者　：　丸亀市立城東小学校教員　６名

管理職2名
学級担任２名
特別支援学級担任１名
特別支援教育支援員１名

全くそう思わない		どちらでもない		とてもそう思う
1	2	3	4	5

ワークショップの感想を５段階で評価

		４か５で評価した割合	６名の平均点
1	普段より積極的に参加していた児童が多かった	100%	4.83
2	新しい一面がうかがえた児童がいた	100%	4.83
3	普段より自己表現していた児童がいた	100%	4.5
4	普段は消極的な児童が楽しそうにしていた	100%	4.5
5	普段は一緒にいない児童同士の交流が見られた	83%	4.17
6	自分自身にも新しい気付きがあった	83%	4.33
7	授業に取り入れられそうな要素があった	67%	4
8	ワークショップ後、児童の様子に変化があった	50%	3.4
9	今後も舞台芸術のプロによるワークショップを取り入れたい	100%	4.83

アンケートの自由記述欄の回答①

どんなことをしても、みんなに認めてもらえる雰囲気にしてもらい、その中で自分を表現する勇気、やった後の拍手が良いサイクルとして進行できていたことに感謝です。

どの子も認めてあげようとする姿勢が感じられ、いい経験ができました。

人前に出て何かをするということは、戸惑いもありますが、雰囲気につられて生き生きと活動する子どもたちは、とても印象的でした。

①やる気のある子→②やってみようかな→③友だちと一緒なら、という子どもたちの一歩踏み出す勇気を押してくれるような発表スタイルが、とても印象的であった。

普段あまり発表しない子どもの一面を見られて、また、お互いにその姿を見せあうことができて、安心した学級づくりにもつながっていたと感じる。

日々一緒に過ごしているが、子どもたちの新しい一面が見られる機会になりました。

アンケートの自由記述欄の回答②

あまり関わりがない児童同士が仲良く活動する姿に感動しました。
子どもたちはいつも以上に活発に動いていて、楽しんでいる様子を見ることができて嬉しかったです。
授業ではなかなか発表できない児童も、１人で友だちの前でパフォーマンスをすることができていてびっくりしたし、その後、照れくさそうに笑っている姿も印象的でした。
普段、みんなでの活動があまり得意ではなさそうな児童が、ほぼずっと輪の中に入っていて驚きました。その場にいるだけでも、自分でみんなの近くに行けていることがすごいなと思いました。
特別支援学級の児童に上手に接して頂きありがとうございました。

ワークショップ写真

所感

【児童の様子】

積極性があり自分の中のパワーを発散させているような力強さを感じる児童が、走り回ったり注意が散漫になる場面では、友だちと協力して体を動かす取り組みを行うことで、互いにコミュニケーションを図りながら、様々な表現ができていた。逆に、自分から前に出ることが苦手でグループでいることが安心するタイプの児童は、周囲をよく観察してポーズを真似したり、恥ずかしそうにしながらも、発表の際は勇気を出して思い切って表現したりできていた。

知的障害がある児童は、コミュニケーションの取り方次第で十分参加することができていた。ワークショップの時間をもう少しとれると、クラスのみんなが一緒に遊ぶ糸口を発見するきっかけとなったかもしれない。

【コロナ禍の影響】

コロナ禍では、まずマスクを取り、その後に笑顔の表情を引き出すという、２段階のコミュニケーションになっていたように思う。また、友だちと団子になって遊んだり、繋がったりくっついたりする体験は、本来、幼稚園の時期に経験するが、今の低学年はそれができていないのかもしれないと感じた。友だちと手をつなぐことに照れたり、異性と触れ合う時に幼いながらも恥ずかしさがあったりする場面で特に感じた。

【ワークショップで経験できること】

普段の学校生活では、並んで整列することが当たり前だが、自由に動き回り「カオス」な状態になって遊ぶことも必要な経験だと思う。面白く体を動かして初めてのポーズを作ってみること、友だちの動きをマネすること、寝っ転がったりして普段見ない角度から友だちを見ること、友だちを踏まないように隙間を縫って慎重に進むこと等が、思いやりの心を育むことや、人や体に対する新しい発見、また、普段と違う視点・物の捉え方に繋がる、楽しい体験として児童の中に残ってくれたらうれしい。

【その他】

一度ワークショップに参加して下さった学校は、今回のような経験の大切さを理解していただけると思う。年度を通して計画する授業のコマ数にワークショップの時間は入れにくいという課題はあるものの、複数回に渡って事業を行うことの効果が期待できるため、教育分野へのアプローチは継続して行っていく。また、ワークショップの後に先生たちと振り返りの時間を持ちたい。